

[演題6]

明舞団地での実習を通して学んだこと

佐々木 美羽¹⁾, 樋口 和樹¹⁾, サービスラーニング実習まちづくり領域実習生一同¹⁾,
西垣 千春²⁾, 糟谷 佐紀²⁾

- 1) 神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科3年
- 2) 神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科

1. はじめに

社会リハビリテーション学科生活福祉デザインコースでは、3年次の夏季休暇に、明舞団地におけるサービスラーニング実習を行った。本稿では、その実習内容と、実習を通して学んだことを報告する。

2. サービスラーニング実習の概要

2015年度入学生より、社会リハビリテーション学科にコース制が導入された。学生は、第4セメスター（2年次後期）以降、社会福祉士コースと生活福祉デザインコースのいずれかを選択し所属する。生活福祉デザインコースの学生は、サービスラーニング実習という名称の学外実習を行う。実習先は、大きく3つの領域（まちづくり、NPO・NGO、福祉用具）に分かれている。実習期間は15日間（一部20日）である。福祉用具のメーカーからNPO法人、地域住民支援まで多岐にわたる。

サービスラーニング実習では、学生が生活上の困難を抱えた人に対応することができ、地域社会開発の担い手となることを目指している。変貌する社会の中で、人びとの暮らしに現れている変化、また変化が及ぼす負の問題に気付く力をつけることを目的としている。達成目標として、「社会の変化を捉え、関心を持つ領域の実情を的確に説明できる」「生活上の問題とその原因について分析できる」「実際に関連する人・

機関に出向き対話できる力をつける」「問題解決の方法を立案し、プレゼンテーションできる」の4つを掲げている。

3. 明舞団地の概要

本学の近隣にある明舞団地は、1964（昭和39）年にまちびらきされた神戸市と明石市にまたがる197ヘクタールの大規模住宅団地である。50年前に多くの子育て世代が明舞団地に移り住んだ。現在、その世代の住民は高齢期を迎え、団地全体の高齢化率は40%を超えている。明舞団地では階段の昇降や坂道の移動が多く、買い物やゴミ出しを困難と感じる高齢者も増えている。

団地中心部に、地域住民を主体とした「明舞まちづくり交流拠点・みなく～る明舞」があり、住民をつなぐ活動が行われている。みなく～る明舞の一角には、本学と兵庫県立大学が共同利用できる空間があり、今回の実習時の拠点ともなった。

4. 明舞団地における実習内容

ーまちづくり領域ー

今年度、サービスラーニング実習を履修した27名の内、15名が明舞団地において実習を行った。全員が参加する活動と、少人数に分かれて行う活動があった。以下に実習内容を報告する。

(1) サマーフェスティバルの企画・運営

8月24日に行われるサマーフェスティバルの企画・運営を全員で行った。サマーフェスティバ

ルは、数年前から、西垣ゼミがあさぎり在宅サービスゾーン協議会と共同で行ってきたイベントで、地域住民の外出機会の創出、地域の相談機関の周知、健康維持増進の機会提供などを目的としている。今回の実習では、事前にチラシやポスターの作成、フェスティバル会場周辺へのチラシポスティング（約 1000 戸）を行った。当日は、綿菓子やかき氷、輪投げやスーパーボールすくいなどのブース運営、会場設営や警備など、様々な業務を交代で担当した。とても暑い日であったが、多くの住民が訪れ、大盛況となった。理学療法学科・福元ゼミによる骨密度測定も行われた。

(2) お食事処ひまわり

明舞団地内には、スタッフの平均年齢が 70 歳以上という「お食事処ひまわり」がある。ここでは、食堂での昼食提供と、昼夜の配食サービスを行っている。実習では、配食する弁当づくり、食堂の配膳・接客を行った。ひまわりでの実習を通じて、美味しい料理をただ届けるだけでなく、笑顔を忘れないこと、本当の気遣いをするということ等を学んだ。本当の気遣いとは、相手の気持ちになって行動し、相手がしてほしいことを考えて行動することである。この経験は、今後も生かしていきたい。

(3) 地域活動支援

明舞団地で行われる様々な地域活動に補助スタッフとして関わった。子どもに昔遊びを教える松っこ教室、子どもたちが自然体験をする明舞団地探検団、団地全体で行われた明舞祭、沿道道路の草刈りなどである。事前準備には関わらず当日だけの参加となった活動も多かったが、準備や広報などの仕事があることを知った。それらが十分に行われたからこそ、当日の参加者が楽しく、安全に活動することができることを知った。

(4) 実習計画と達成度の報告会

実習開始日に実習計画を、夏期の実習の最終日に計画達成度を、実習生が一人ずつ報告する

機会が設けられた。みなく〜る明舞のスタッフだけでなく、兵庫県や兵庫県公社の職員、実習でお世話になった関係者など多くの方が聞きに来てくださった。皆さんから、多くの温かいコメントをいただいた。

5. 実習を通して得たもの

実習を通して、日常生活において他愛もない会話によって人とのコミュニケーションは始まるのだということ等を学んだ。高齢者や子どもに対し、どのような声をかければよいのかと最初は緊張していた。しかし、「暑いですね」「お孫さんと一緒なのですね」や、「学校では何が流行っているの」「スポーツは何をしているの」などを、笑顔で話しかけると、相手は自然と話をしてくれるということ等を体感できた。笑顔と積極性があれば、年齢に関係なく色々な人と関わることができる、そのことを明舞団地での実習を通して学ぶことができた。また明舞団地では、様々な住民活動が行われていることも知った。多くの人に出会い、まちを知ることで、最初はあまり知らなかった明舞団地に愛着を感じるようになった。



サマーフェスティバルの様子



明舞団地探検団の様子